

中学校社会科における深い学びの授業

— 知識の駆動に着目して —

学籍番号 189987

氏名 堀内 智生

主指導教員 糸井川 孝之 教授

1. 背景

1.1 筆者の経験より

筆者のうけてきた社会科の授業は、教師が中心に進める「一斉指導型」の授業ばかりだった。このことから、社会科が暗記科目であるイメージが強かった。知識を覚えることも大切だが、知識を活用したり、グループで話し合ったりする授業は、今まで受けてきていない。本研究は、筆者の経験と新学習指導要領の改訂の経緯を踏まえ、単なる知識の暗記で終わらない社会科の授業を実践し、効果を検証することを目的に進めた。

1.2 学習指導要領について

2021年度から全面実施される中学校学習指導要領(平成29年告示)では「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善がキーワードとなっている。「深い学び」について中学校学習指導要領(平成29年告示)解説において『習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているかという視点』と書かれている。下線を引いた点に着目し、実践のテーマとした。

1.3 知識の駆動について

深い学びに関して、田村(2018)は、『「知識・技能」が構造化されたり、身体化されたりして高度化し、駆動する状態に向かうこと』と述べている。また、「知識の駆動」についても『バラバラと知識が存在しているのではなく、知識が構造化されていかなければならない』と述べている。この2点が、学習指導要領の示す「知識を相互に関連付けてより深く理解したり」という点に合致していると考えた。このことから、社会科における「深い学び(知識の駆動)」とは、社会的事象を単語としてとらえるのではなく、資料の読み取りなどを通して事象と事象がつながりあっていく状態になることであると考え、田村(2018)の理論を軸として実践研究を行った。

2. 実践研究の概要

2.1 実践研究 I

実践研究 I では、グループワークが生徒の考えにどのような変化を与えるのかを検証することを目的と実践を計画した。個人作業→グループワーク→振り返りの順で授業を行い、生徒はグループ

ワークで話したことを踏まえて、主発問に対する振り返りを書かせた。振り返りをルーブリック評価した結果は、グループワーク後の振り返りの方が、全体の平均が向上していた。しかし、資料などからの根拠を明確に関連付けて記述させることができていなかった。

2.2 実践研究Ⅱ

実践研究Ⅱでは、実践研究Ⅰでの知見を踏まえて、「知識の駆動」を起すためのグループワークについて明らかにすることを目的として実践を行った。グループワークで話し合ったことと授業内容が関連付いていることを「知識の駆動」とした。単元A(一斉に同じ資料について考えるグループワーク)と単元B(グループごとに別々の資料について考えるグループワーク)の2種類を行い、振り返りを書かせた。振り返りの記述をルーブリック評価した結果、単元Bの方がよい結果を得ることができた。一方で、生徒の記述の中に、空間や地域の特性に着目した「社会科の見方・考え方」の働いた記述をさせることは、できていなかった。

2.3 実践研究Ⅲ

実践研究Ⅲでは、実践研究Ⅱでの実践に加えて、生徒の記述の中に「社会科の見方・考え方」を働かせながら「知識の駆動」を起すことを目的とした。「見方・考え方」を働かせることのできる発問とグループワークの効果について、生徒の記述からルーブリック評価で検証した。ルーブリック評価の結果は、中心概念が示された主発問と資料を一つ一つ丁寧に読み取らせながら進めたグループワークを入れることで、生徒から「社会科の見方・考え方」が働いた記述が見られた。

3. 総合考察

実践研究ⅠからⅢを通して明らかにすることができた「中学校社会科における深い学びの授業」に必要な要素について述べていく。

①役割が与えられたグループワーク

実践研究Ⅱでは2種類のグループワークを行うことで、グループワークの実態を明らかにすることができた。グループで別々の資料について考えさせ、クラス全体に発表させることで、話し合う必要性をつくることができ、授業の振り返りの記述に変化が見られた。このことから、グループごとに別々の資料について考え、発表する役割の与えられたグループワークが重要であるとの結論を得た。

②精選した資料の提示

実践研究Ⅱでは、一斉に資料を提示したが、資料が多く、どの資料について読み取ればいいのか生徒にとってわかりにくい部分があった。実践研究Ⅲでは、読み取らせる資料を一つ一つ提示し、量も減らした。結果、実践研究Ⅱと実践研究Ⅲの振り返りの記述の平均を比較すると、実践研究Ⅲの振り返りの方がよい結果を示したので、精選した資料の提示が必要だった。

③焦点を絞り、中心となる概念を示した主発問

実践研究Ⅲでは、中心となる概念を含み、学習の目的をはっきりと示す主発問の効果を示すことができた。中心概念が示されている主発問と示されていない主発問では生徒の振り返りの記述に変化があった。生徒に具体的に学習内容が何であるかについて示すことで、授業の必要性を理解させることができたと推察している。